

市川市鳥類モニタリング調査報告書

2025 年度



ノスリ 大町自然観察園 2026 年 1 月 12 日

市川市環境部自然環境課

2026 年 7 月

目 次

1.	はじめに	1
2.	調査地	1
3.	調査方法	1
4.	調査結果	
4-1.	調査地全体	1
4-2.	大町自然観察園	3
4-3.	大野町 4 丁目水田	5
4-4.	大野町 4 丁目ふれあい水田(小川再生親子ふれあい農園)	6
4-5.	こごと公園	8
4-6.	大柏川第一調節池緑地	9
4-7.	柏井調整池	11
4-8.	柏井青少年の森	13
4-9.	小塚山公園	15
4-10.	堀之内貝塚公園	16
4-11.	じゅん菜池緑地	18
4-12.	国分川調節池緑地	19
4-13.	真間山・弘法寺周辺	22
4-14.	里見公園	23
4-15.	江戸川河川敷	25
4-16.	JR 市川駅周辺	27
5.	外来種について	28
6.	レッドデータ掲載種	28
7.	摘要	30

添付資料：調査地別データ

国分川調節池緑地繁殖期調査 2024・2025 年度報告書

1. はじめに

鳥類モニタリング調査は、自然環境の変化や生物多様性の現状を定量的に把握し、生態系の健全性や環境変化を評価するものです。長期的なデータを蓄積することで、生物多様性保全や環境管理に活かすための基礎資料となります。

調査地概要や調査方法については従来通りなので、記述を省略しました。当該事項の詳細は「市川市鳥類モニタリング調査報告書（2015 年度～2022 年度）」を参照してください。

本報告書は 2025 年 4 月から 2026 年 3 月までの 1 年間の調査結果をまとめたものです。

2. 調査地

従来通り、15 か所の調査を行いました。

3. 調査方法

従来通り、ラインセンサス法により行いました。

4. 調査結果

4-1. 調査地全体

出現種類数の変化

2025 年度に確認された鳥類は 85 種類でした。2025 年度の冬期は、比較的多くの森林性の冬鳥が観察されました。リュウキュウサンショウクイ、ヒガラ、キクイタダキなどです。よって、樹林環境を持つ調査地で、確認種類数が例年より少し多くなりました。個々の調査地についてのコメントは、各調査地の項に記載します。

今年度、新たに記録された種は、アカエリヒレアシシギ、ヒガラ、ニシオジロビタキです。2015 年 7 月以降の調査により、調査地全体で 124 種類が記録されました。(外来種は除く)



キクイタダキ：里見公園 2026 年 2 月 10 日

【キクイタダキ】

全長 10cm、日本で見られる鳥の中ではいちばん小さい鳥です。

市内には数少ない冬鳥として渡来します。2025 年度の冬には大町自然観察園、柏井青少年の森、真間山・弘法寺周辺、里見公園、小塚山公園で記録されました。

夏は北海道や本州の高山帯の針葉樹で繁殖します。

表 1 調査地別記録種類数の変化

種類数(単位:種)											
調査地	2015年度※	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
大町公園	36	30	34	28	27	31	34	28	32	28	36
大野町4丁目水田	16	19	25	20	18	17	16	20	16	13	13
大野町4丁目ふれあい水田	16	20	24	22	17	17	20	23	21	20	21
ござと公園	23	25	25	26	29	28	27	25	28	25	29
大柏川第一調節池緑地	41	46	46	49	43	38	44	43	41	43	41
柏井調整池	17	22	17	16	12	13	14	17	7	9	13
柏井青少年の森	21	25	20	23	24	30	29	23	24	21	25
小塚山公園	17	25	20	19	21	21	16	19	17	18	24
堀之内貝塚公園	22	24	22	23	21	20	17	22	21	19	25
じゅん菜池緑地	35	39	39	39	46	38	36	41	37	38	42
国分川調節池緑地	38	43	42	41	41	39	42	37	35	39	42
真間山・弘法寺周辺	17	25	23	23	23	24	21	20	18	18	23
里見公園	24	25	23	25	23	29	28	28	25	29	31
江戸川河川敷	37	44	46	43	44	35	46	47	47	47	40
JR市川駅前	8	8	8	5	10	8	9	10	7	10	9
調査地全体種類数	74	79	75	80	80	79	80	75	80	77	85
※2015年度は7月より実施											

出現個体数の変化

調査地全体で出現した個体数は 11,476 羽でした。調査地全体としては、例年と大きな変化はありませんでした。

表 2 調査地別記録個体数の変化

個体数(単位:羽)											
調査地	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度	2025年度
大町公園	717	1105	1006	1174	1263	1500	1427	1225	1278	1172	1259
大野町4丁目水田	238	181	245	156	292	363	280	75	97	105	124
大野町4丁目ふれあい水田	394	309	401	395	274	355	644	443	216	305	432
ござと公園	502	604	642	540	508	509	527	506	553	704	703
大柏川第一調節池緑地	763	1090	1243	969	1327	1070	1272	1100	1233	1141	1288
柏井調整池	321	354	251	238	126	140	95	101	43	46	55
柏井青少年の森	394	658	669	720	981	1048	1175	988	1081	1095	1091
小塚山公園	189	390	355	374	414	669	523	511	469	463	556
堀之内貝塚公園	311	403	590	658	581	622	618	583	699	545	649
じゅん菜池緑地	1814	2067	2026	1928	2031	2113	2257	2210	2210	1717	1571
国分川調節池緑地	1186	1132	1670	1536	1768	1186	1595	1292	1065	1311	1388
真間山・弘法寺周辺	396	583	601	787	531	570	787	517	733	718	492
里見公園	506	800	538	752	836	921	739	798	891	729	769
江戸川河川敷	699	1071	1055	733	978	855	1250	1092	978	699	962
JR市川駅前	84	90	117	77	111	164	144	90	178	131	137
調査地全体個体数	8514	10837	11409	11037	12021	12085	13333	11531	11724	10881	11476
※2015年度は7月より実施											

4-2. 大町自然観察園

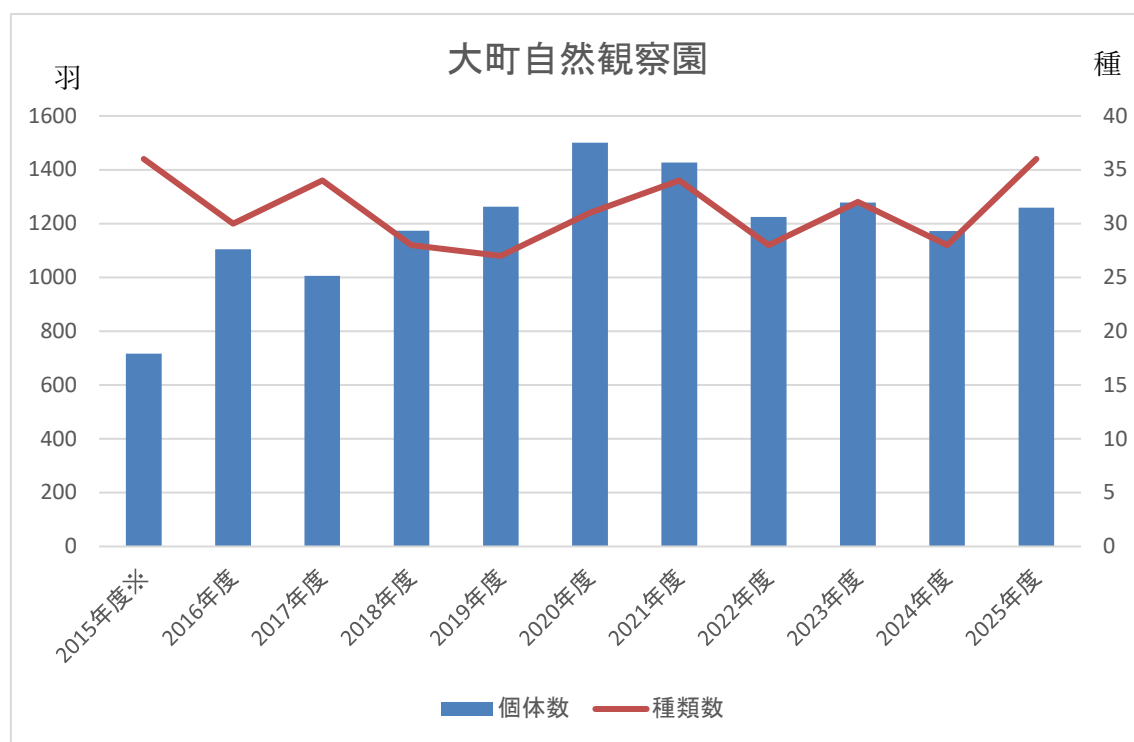
調査地の環境変化

2019年から発生したナラ枯れにより、斜面林のコナラが枯れ、随時、伐採・撤去が行われていましたが、現在は新たに枯れるコナラはほとんどありません。樹林環境改善のための西側斜面林の下草・低木の刈払いは引き続き行われました。今年度新たに東側斜面（バラ園東側）の一部も下草・低木の刈払いが行われました。

調査結果

36種1,259羽の鳥類が確認されました。昨年度に比べると種類数が8種増えました。2025年度は森林性の冬鳥の飛来が多かったことが一因になっています。個体数は例年と大きな変動はありませんでした。

図1 種類数と個体数の変化（大町自然観察園）



【特記】

- ・4月4日：オオタカがカラスを追い払っていました。
- ・5月9日：斜面林からオオタカの声が頻繁に聞こえてきました。
- ・5月25日：アシ原の中でオオヨシキリが大きな声で鳴いていました。この調査地では初めて確認しました。＜調査日外＞
- ・6月10日：植物園前の林で、ホオジロの小群が見られました。親と幼鳥の家族群でした。

- ・8月1日：鳥たちの声がほとんど聞こえません。暑すぎるせいでしょうか。確認できた鳥類も少ない傾向となりました。斜面林からはヒグラシの鳴き声が多数聞こえました。
- ・9月2日：シジュウカラ・メジロ・コゲラの混群が見られました。
- ・10月14日：上空を2羽のアマツバメが西から東へ通過していきました。
- ・1月12日：ハンノキにノスリがじっと止まっていました。多数のカメラマンが撮影していました。＜調査日外＞
- ・1月13日：シジュウカラの群れにキクイタダキ5羽とリュウキュウサンショウクイ3羽が混じっていました。
- ・3月12日：ウグイス1羽が囀っていました。
- ・3月12日：エナガが巣材（羽毛）をくわえていました。



ウソ雄：2026年1月12日



ヒガラ：2025年11月3日



リュウキュウサンショウクイ：2026年2月3日



モズの雌雄：2026年3月12日

4-3. 大野町 4 丁目水田

調査地の環境変化

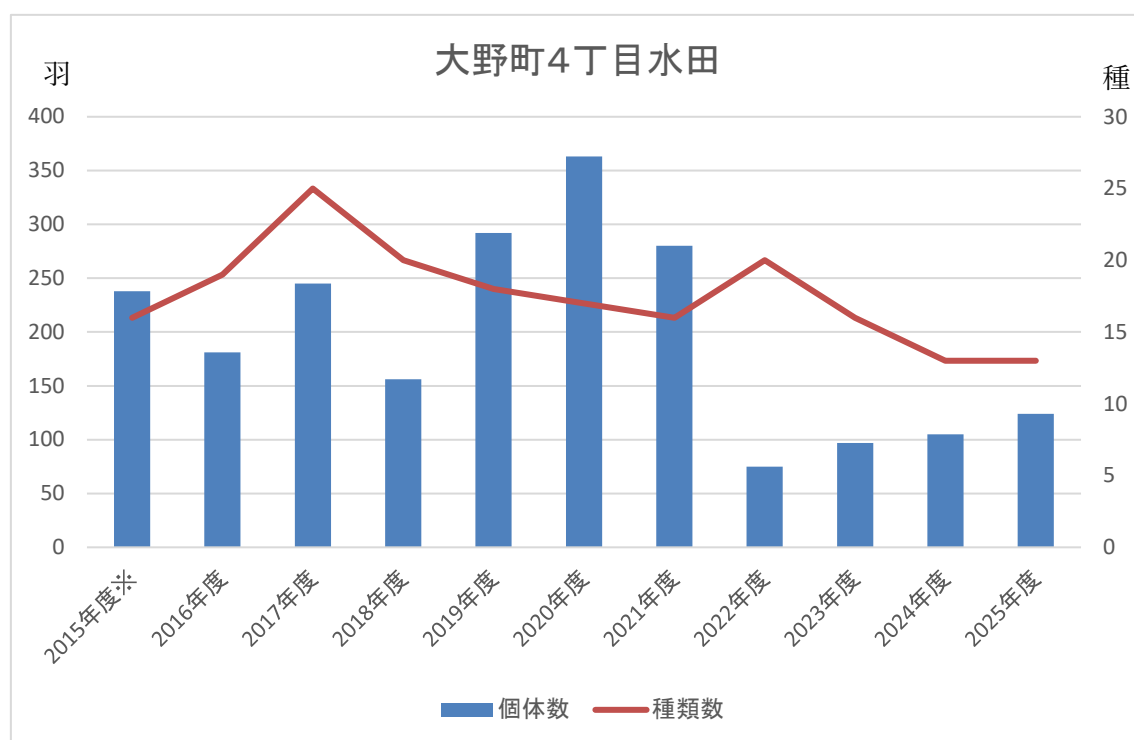
年度途中に調査区域内のブッシュが刈り払われました。

調査結果

13種124羽の鳥類が確認されました。個体数は年度により変化がありますが、これは秋から冬に群れで観察されるスズメとムクドリの影響を受けます。

当調査地は一昨年の開発でドライブインが建設され、2025年度はブッシュも無くなったことから、今後さらに種類数が減少する可能性があります。

図 2 種類数と個体数の変化（大野町 4 丁目水田）



【特記】

- ・ 6 月 10 日：ハクセキレイが、羽化して飛び立ったオオシオカラトンボを捕らえました。
- ・ 7 月 15 日：調査地内のレストランでツバメが子育てをしていました。
- ・ 11 月 7 日：草地で 2 羽のタヒバリが餌を探していました。
- ・ 2 月 20 日：調査地の中にあったブッシュが刈られなくなっていました。ツグミ 1 羽が餌を探していました。



ハクセキレイ：2026 年 1 月 9 日



環境写真：2025 年 12 月 26 日

4-4. 大野町 4 丁目ふれあい水田

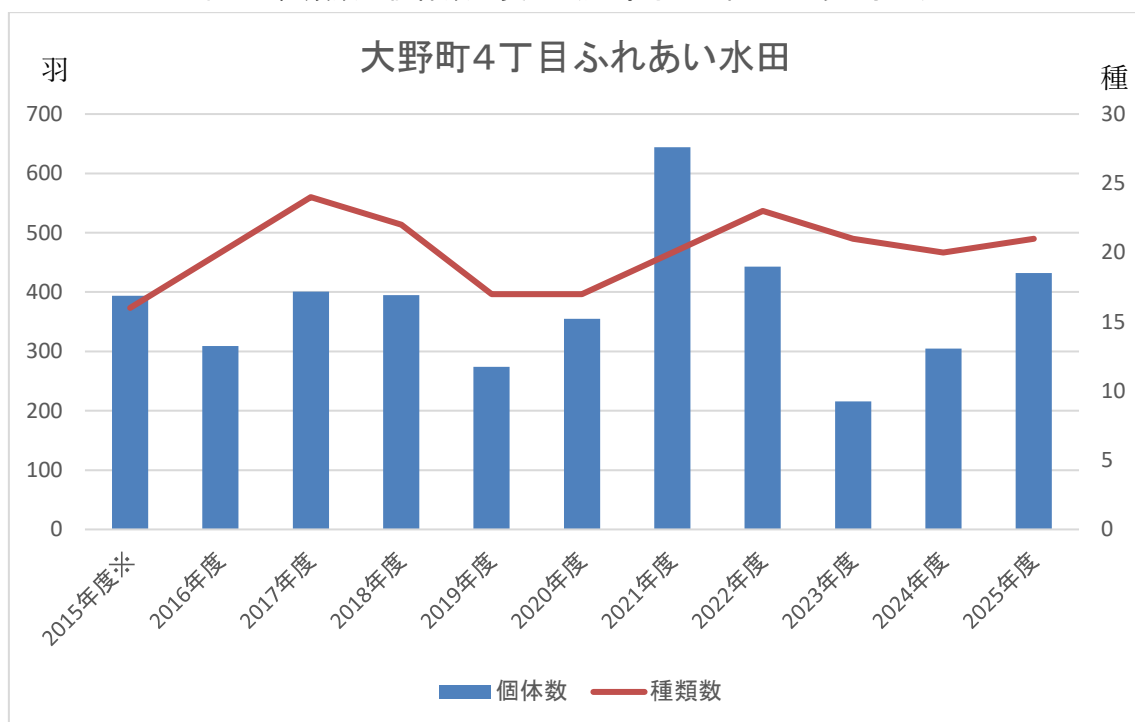
調査地の環境変化

特に変化はありません。

調査結果

21 種 432 羽の鳥類が確認されました。種類数については昨年とはほぼ同様でした。個体数は年度により変化がありますが、これは秋から冬に群れで観察されるスズメとムクドリの個体数により影響を受けます。市内では稀な冬鳥といえるホオアカが、4 羽記録されたことは特筆できます。

図3 種類数と個体数の変化（大野町 4 丁目ふれあい水田）



【特記】

- ・ 5 月 20 日：コチドリ 3 羽が鳴きながら飛び回っていました。
- ・ 10 月 14 日：草原からセッカ 1 羽が飛び出しました。
- ・ 11 月 7 日：田んぼからタシギ 1 羽が飛び出し「ジェー」と鳴きながら飛び去りました。
- ・ 1 月 9 日：田んぼからホオアカ 1 羽が飛び出し枯れ草の上に止まりました。
- ・ 3 月 12 日：田んぼからホオアカ 4 羽が飛び出して枯れ草の中に逃げ込みました。



ホオアカ：2026 年 1 月 9 日



カルガモ：2025 年 6 月 10 日



環境写真：2025 年 4 月 25 日（カルガモが写る）

4-5. こざと公園

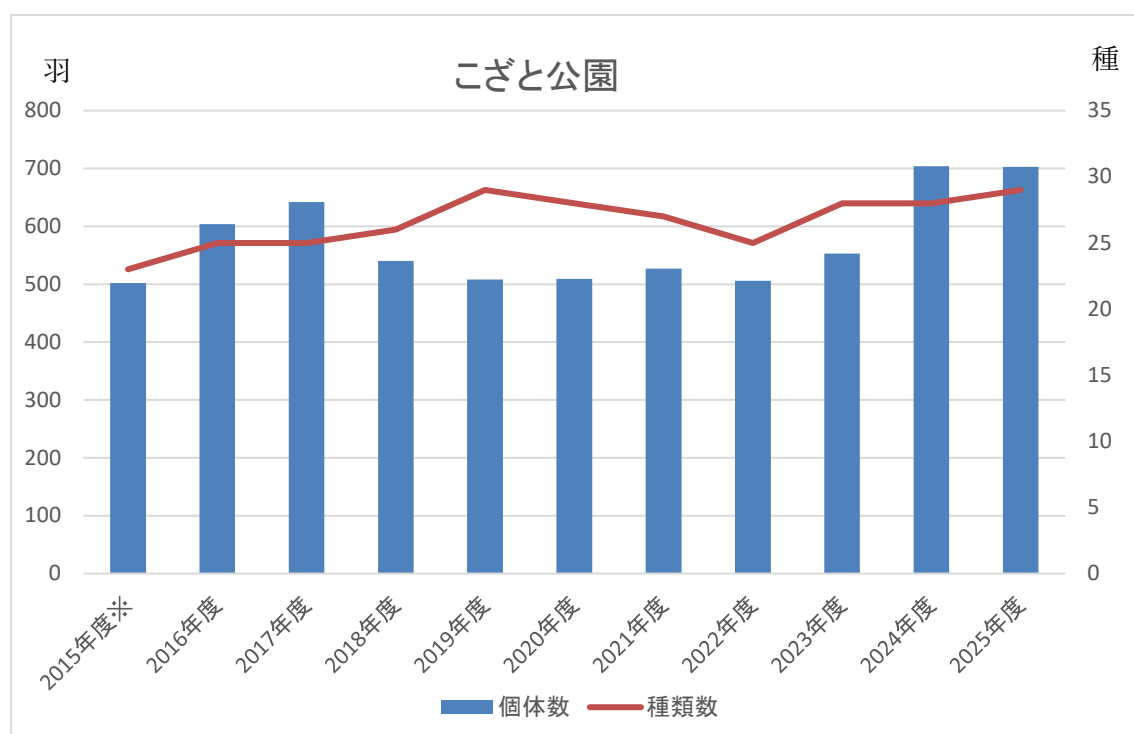
調査地の環境変化

特に大きな変化はありません。公園緑地課により、定期的な水生植物の管理が行われています。

調査結果

29 種 703 羽の鳥類が確認されました。例年と大きな変化はありません。前年度とは種類数・個体数ともにほぼ同様でした。

図 4 種類数と個体数の変化（こざと公園）



【特記】

- ・10月24日：コガモとハシビロガモが飛来していました。
- ・1月23日：池のほぼ全面に氷が張っていて、氷が張っていない部分にハシビロガモ4羽が集まっていました。また、氷の上を10羽のオオバンが歩いていました。
- ・2月3日：北公園の刈残したアシの中で、オオジュリン3羽、シジュウカラ1羽、スズメ十数羽がアシの皮を剥がしてカイガラムシの仲間を探していました。



オオヨシキリ：2025 年 5 月 27 日



オオジュリン：2026 年 2 月 3 日



ツバメのヒナ：2025 年 5 月 27 日



タシギ：2026 年 3 月 13 日

4-6. 大柏川第一調節池緑地

調査地の環境変化

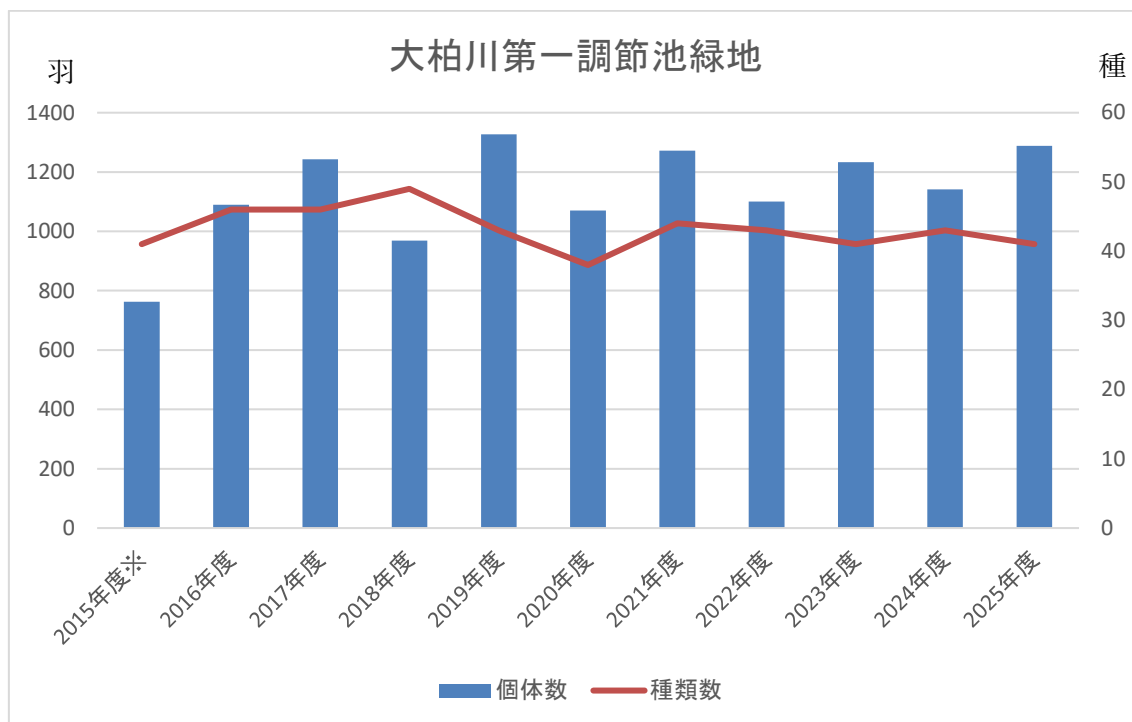
特に大きな変化はありません。緑地内は県・市・ボランティアにより定期的な草刈りが行われています。また、市により緑地内の湿地環境の維持管理が行われています。

調査結果

41 種 1,288 羽の鳥類が確認されました。種類数・個体数とも、例年とほぼ同様でした。近年、調査地で繁殖しているアオサギと同じ場所でコサギの繁殖が確認されました。コサギの地上繁殖は珍しい事例です。

本調査では詳細な調査はしていませんが、2025 年には 7 巣が確認され 4 羽のヒナの巣立ちが確認されています。(引用文献：越川重治・大野正利・丸井民男・澁谷孝, 2025.千葉県市川市でのコサギとアオサギの地上繁殖 Urban Birds Vol42:24-30)

図5 種類数と個体数の変化（大柏川第一調節池緑地）



【特記】

- ・ 4月18日：コチドリ 3羽が鳴きながら追いかけてっこをしていました。
- ・ 5月27日：ヒバリが囀り飛翔していました。
- ・ 5月27日：池の草の中からカイツブリのヒナの声が聞こえてきました。
- ・ 7月18日：池の草の中から「コッ・コッ・コッ・コッ」とバンの鳴き声が聞こえてきました。
- ・ 8月15日：ムクドリの群れがミズキの実を食べていました。3羽のコムクドリが混じっていました。
- ・ 1月30日：アオサギが営巣準備に入ったようです。求愛しているペアも確認しました。



コサギ繁殖：2025年4月18日



アオサギ求愛：2026年1月30日



セッカ：2025 年 6 月 20 日



ホオジロ：2025 年 4 月 18 日

4-7. 柏井調整池

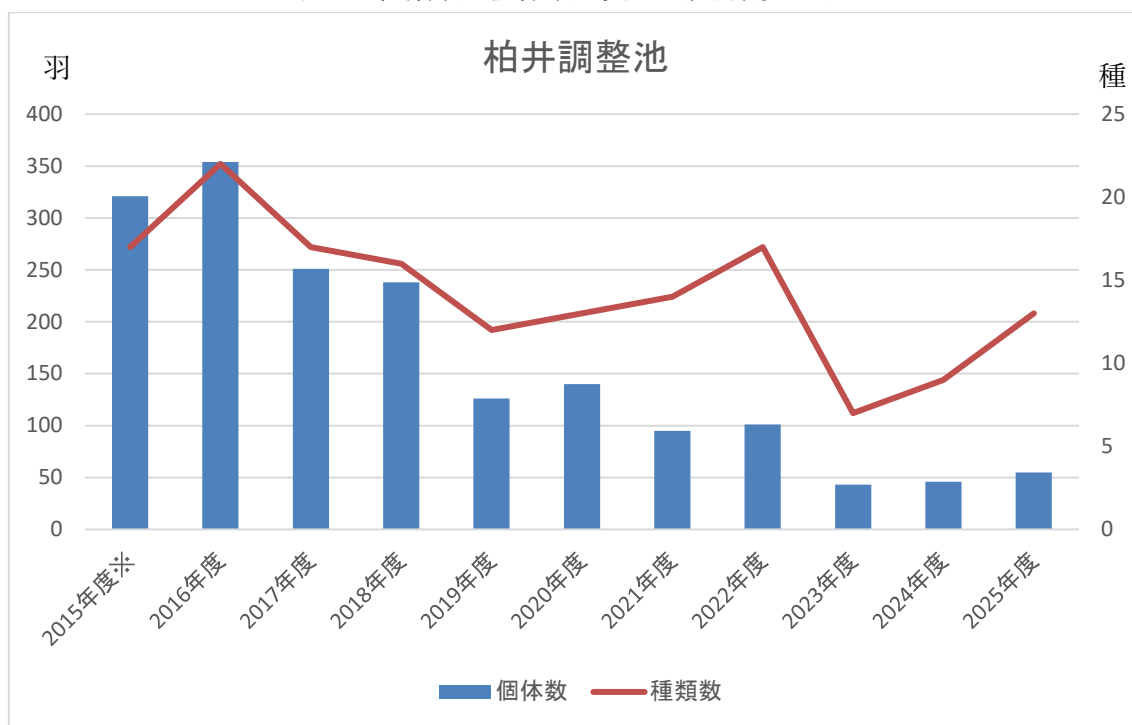
調査地の環境変化

外観上、環境的な変化はないのですが、水位の変化があるようです。立入りが出来ないため詳細はわかりません。

調査結果

13 種 55 羽の鳥類が確認されました。種類数が増加傾向です。今後の動向に注視したいと思います。

図 6 種類数と個体数の変化（柏井調整池）



【特記】

・4月4日：久しぶりにカモ類（ヒドリガモ 8羽、ハシビロガモ 16羽、カルガモ 2羽）が集まっていました。

・12月16日：いつもより水が少なく感じましたが、カワウとヒドリガモが確認できました。

・1月9日：カワセミのオスがメスをしつこく追いかけていました。



カワセミ：2026年1月9日



カイツブリ：2026年3月13日



環境写真（ヒドリガモの小群が写る）：2026年1月9日

4-8. 柏井青少年の森

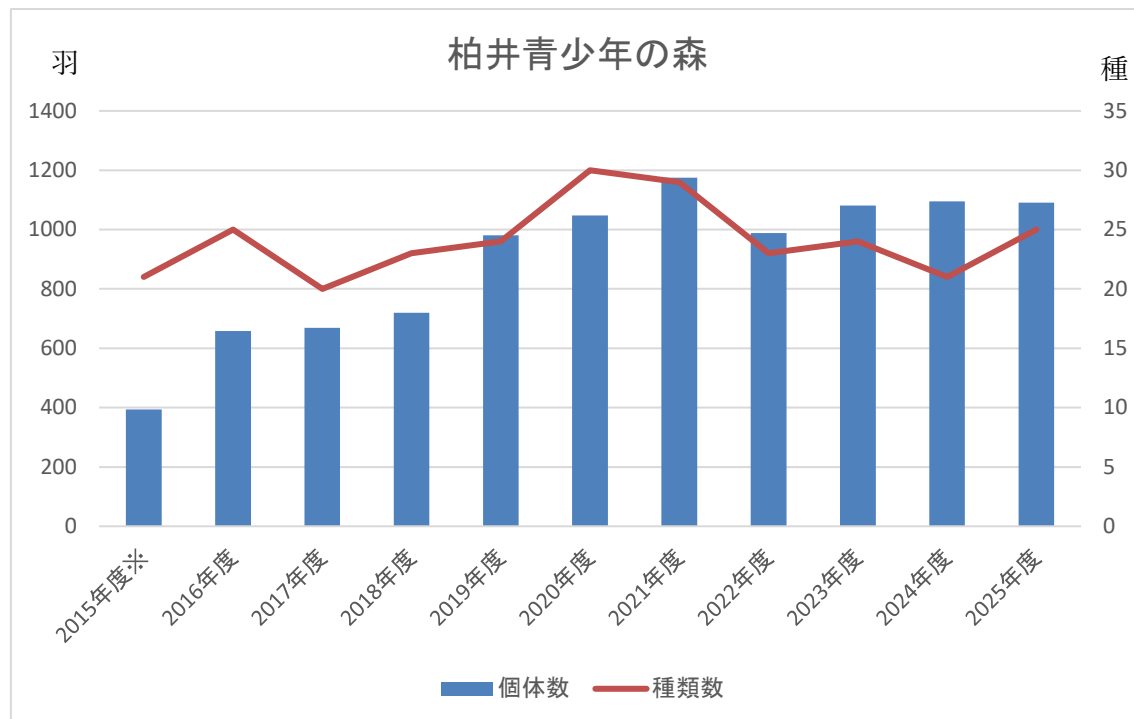
調査地の環境変化

2019年から発生したナラ枯れにより、多くのコナラが枯れました。枯れた樹木の一部は撤去され、樹木の撤去により林の中にギャップができました。光が林内へ届き、地表近くの植物が茂るようになり、雑木林の様子が変化します。そうした樹林の変化が棲息する鳥類に影響を与えるのか注視する必要があります。

調査結果

25 種 1,091 羽の鳥類が確認されました。個体数は例年とほぼ同様でした。種類数は昨年度に比べ 4 種増加していますが、これは 2025 年度に森林性の冬鳥が多く記録されたことが一因です。市内で稀な冬鳥のニシオジロビタキが記録されました。

図 7 種類数と個体数の変化（柏井青少年の森）



【特記】

- ・ 4 月 4 日：ヒヨドリ 10 羽がイヌシデの新芽を啄んでいました。
- ・ 5 月 20 日：メジロがヒナを連れていました。
- ・ 6 月 13 日：シジュウカラ 8 羽、メジロ 5 羽が混群になっていました。
- ・ 9 月 15 日：ミズキの木にメジロ・シジュウカラ・コゲラが集まり実を食べていました。
- ・ 10 月 10 日：カキノキで 10 羽のメジロが熟したカキを食べていました。
- ・ 12 月 16 日：スギの木の高いところから「ジッジッ ジッジッ・・・」と小さな鳴き声が

聞こえてきたので、鳴き声の主を探すとニシオジロビタキでした。その後、区域内の水たまりで水浴びをする様子も観察できました。

・12月16日：シジュウカラとメジロの群れの中に動きの速い小鳥がいたので、確認するとキクイタダキでした。全部で4羽確認できました。

・1月9日：12月に確認していたニシオジロビタキを再度確認しました。キャンプ場で時々、地面に降りていました。

・1月30日：アカゲラ（雌）が枯れ木を突く大きな音が聞こえました。＜調査日外＞

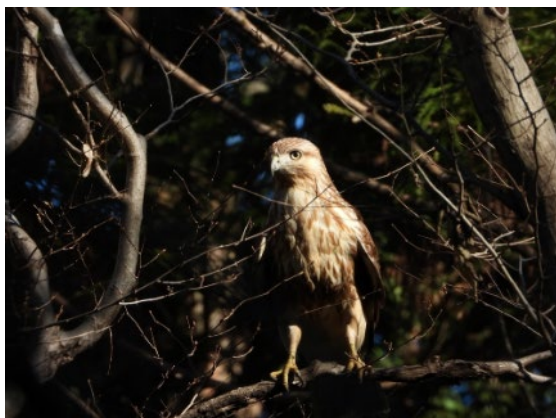
・3月12日：ウグイス2羽が囀っていました。



ニシオジロビタキ：2025年12月16日



アカゲラ：2026年1月30日



ノスリ：2026年10月4日



シロハラ：2026年1月9日

4-9. 小塚山公園

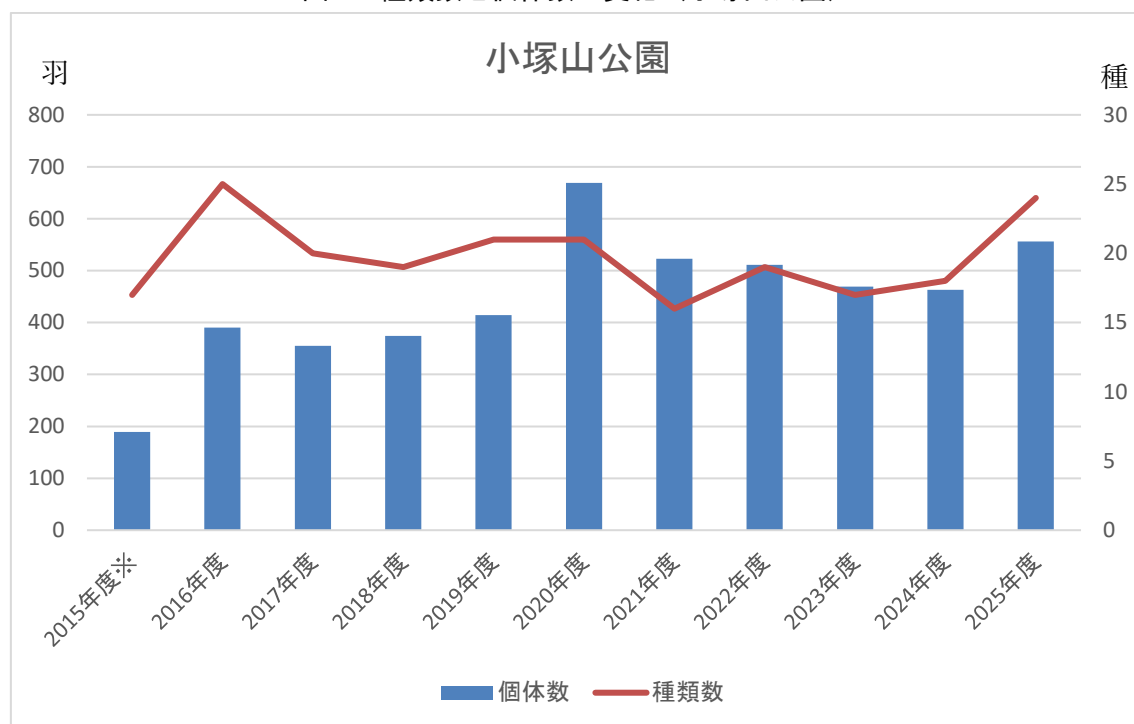
調査地の環境変化

2019 年から発生したナラ枯れにより、園内のコナラが枯れ、伐採・撤去が行われました。現在、新たに枯死するコナラは無いようです。

調査結果

24 種 556 羽の鳥類が確認されました。種類数が増加しましたが、今年度、森林性の冬鳥が多く記録されたことが一因です。今後の動向に注目したいと思います。

図 8 種類数と個体数の変化（小塚山公園）



【特記】

- ・9月12日：ヤマガラだけの30羽程の群れに出会いました。他の種は混じっていませんでした。
- ・11月14日：カラの群れにリュウキュウサンショウクイ6羽が混じっていました。イヌシデやケヤキどの高い位置をカラの群れと一緒に移動していきました。時々、「ヒリヒリ・・・」と鳴いていました。
- ・1月16日：ククイタダキ5羽が針葉樹の樹冠の中で、素早く動き回って餌を探していました。
- ・2月6日：オオタカがしきりに鳴いていましたが、姿は確認できませんでした。



リュウキュウサンショウクイ：2025 年 11 月 14 日



オオタカ：2025 年 4 月 25 日

4-10. 堀之内貝塚公園

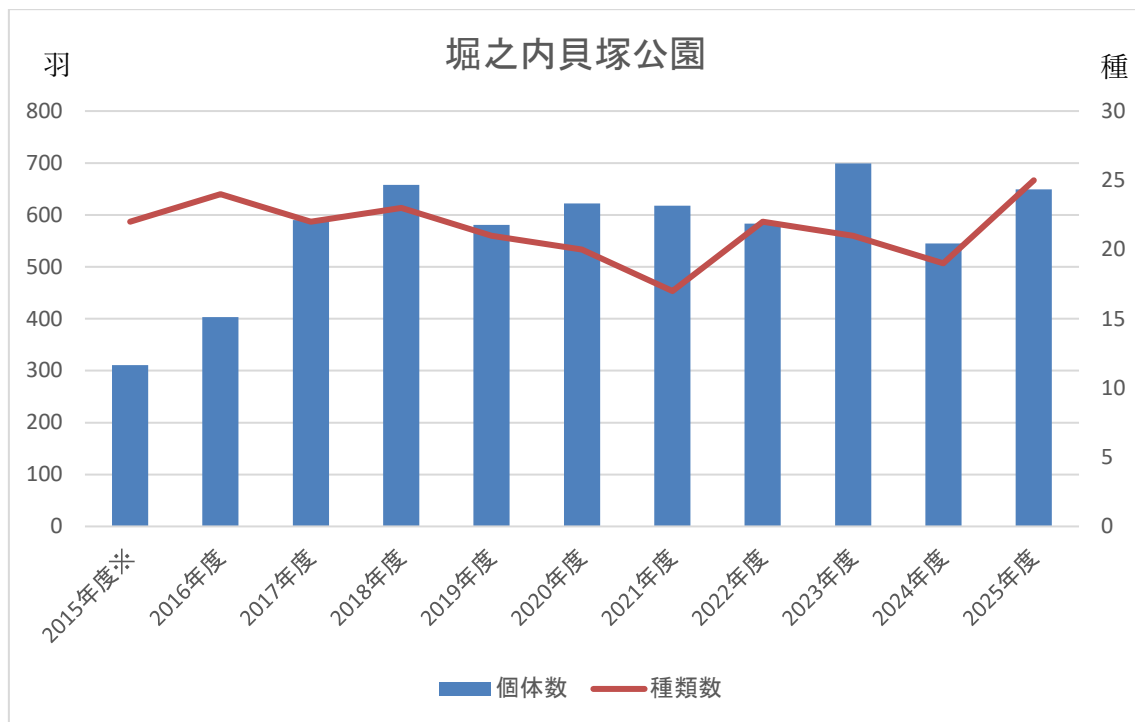
調査地の環境変化

特に大きな変化はありません。

調査結果

25 種 649 の鳥類が確認されました。今年度は 25 種が確認され、小塚山公園同様、種類数が増加しました。

図 9 種類数と個体数の変化（堀之内貝塚公園）



【特記】

- ・4月11日：カワラバト（ドバト）32羽の群れが、広場で落ち葉をかきわけて餌を探していました。
- ・8月19日：鳥が少なく、鳴き声もほとんど聞こえませんでした。
- ・9月12日：林の中からサシバが飛び出し、東方向に飛び去りました。
- ・11月9日：渡り途中と思われるツグミとシロハラが多数確認されました。ツグミ 23羽、シロハラ 6羽確認され、大きな木の樹冠から樹冠へと活発に移動していました。
- ・1月16日：シメが20羽ほど地面に降りてなにかをついばんでいました。近づくと一斉に飛び立ちました。



カワラヒワ：2026年2月6日



メジロ：2026年3月24日



ホタルズラ（林縁で見られます）：2025年4月29日

4-11. じゅん菜池緑地

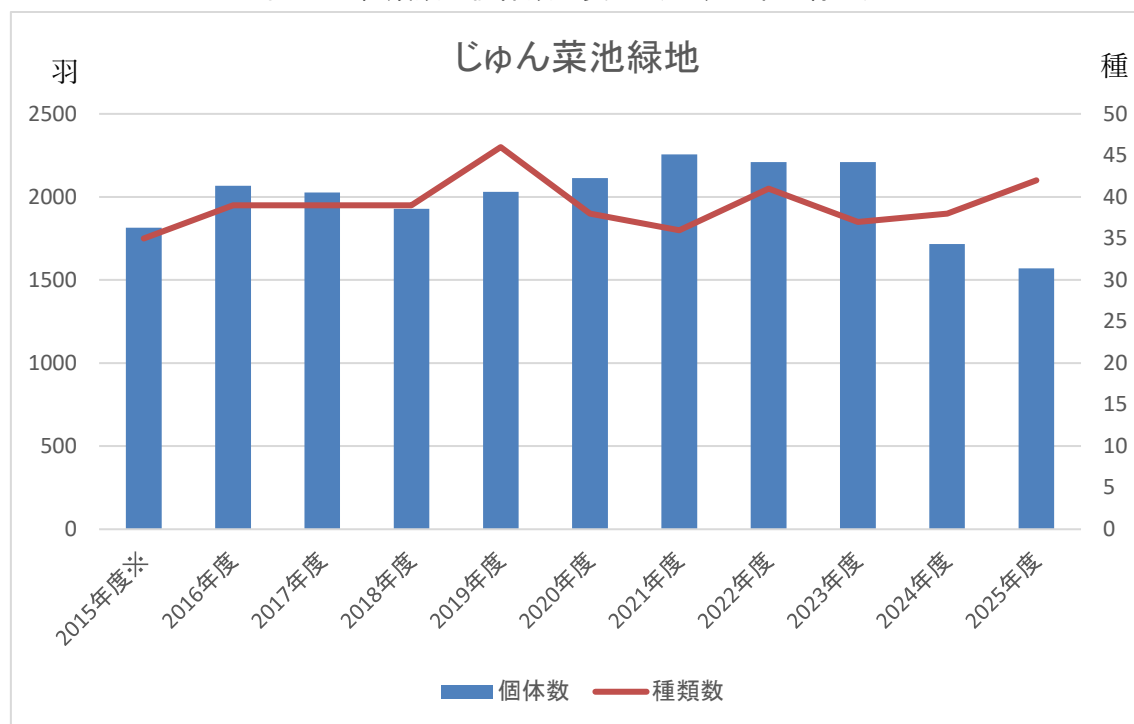
調査地の環境変化

特に大きな変化はありません。

調査結果

42 種 1,571 羽の鳥類が確認されました。個体数が減少しました。内訳を見るとカモ類、特にコガモが 100 羽減少していました。今年度は中之島のアシが冬期にも残されました。アシにより中之島で休息するカモ類の確認し難く、コガモの確認個体数が減少した一因になったかもしれません。

図 10 種類数と個体数の変化（じゅん菜池緑地）



【特記】

7 月 25 日：池の上空をツバメ 11 羽が飛び回っていました。餌の虫を探していたようです。

8 月 22 日：鳥の姿も声もとても少なかったです。ツクツクボウシの声は賑やかでした。

10 月 28 日：池にマガモ・ヒドリガモがやってきました。

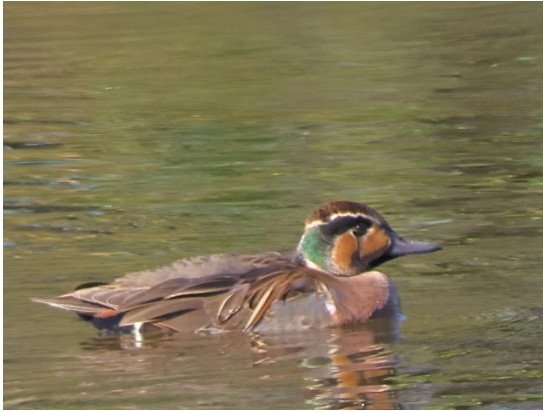
11 月 21 日：池にトモエガモ 1 羽が飛来しました。久しぶりの確認でした。

11 月 21 日：飛んできたツミが桜の木にしばらく止まっていました。

11 月 28 日：北側の樹林にリュウキュウサンショウクイの声が聞こえてきました。声から 1 羽だと思われました。＜調査外＞

12 月 23 日：北側の樹林の上空でハイタカとオオタカがバトルをしていました。

1 月 27 日：ヨシガモのオス 2 羽が飛来していました。土手の草をついばんでいました。



トモエガモ 2025 年 11 月 21 日



ヨシガモ 2026 年 1 月 27 日



ハイタカ 2025 年 11 月 21 日



ジョウビタキ 2025 年 12 月 16 日

4-12. 国分川調節池緑地

調査地の環境変化

当調査地はアシなどの草刈り作業の時期により、水面や湿地の環境が変化します。近年はアシやヒメガマなどの繁茂範囲が著しく、水面が見えないことが多くなっています。

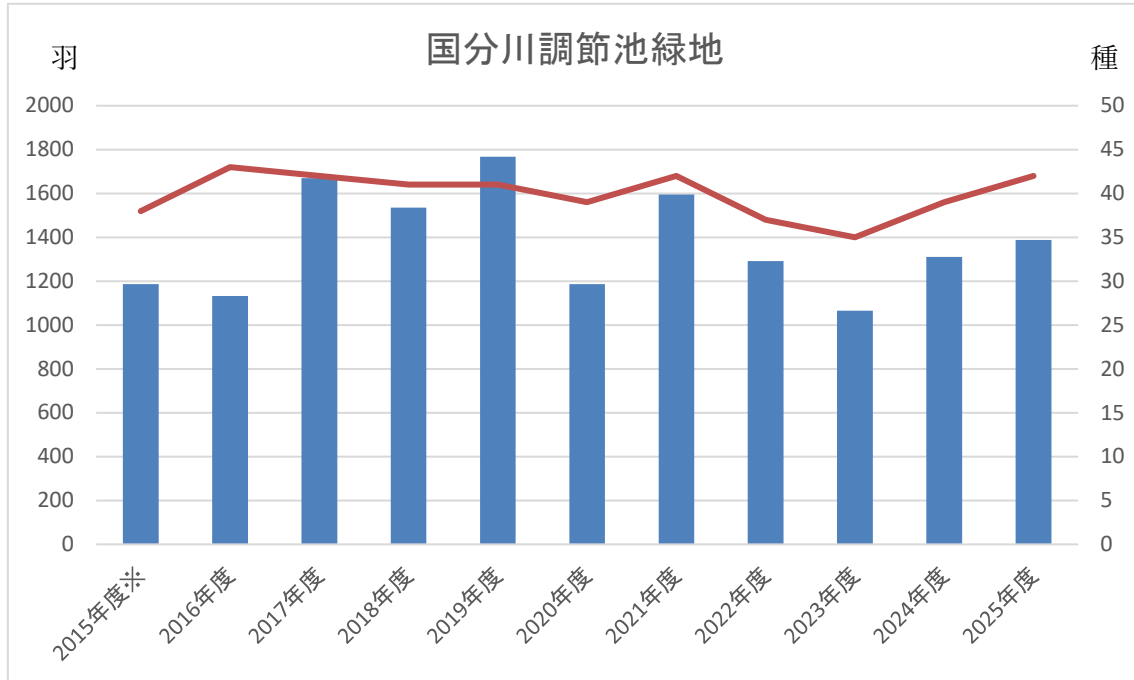
2024 年後期の環境省自然共生サイトに当調査地の一部（自然ふれあいゾーン、散策・休息ゾーンの一部）が認定されました。

調査結果

41種1,388羽の鳥類が確認されました。例年と大きな変化はありません。

2024年に自然共生サイトに認定された区域について繁殖期調査を実施しました。2024年と2025年の結果を、本報告書の資料に「国分川調節池緑地繁殖期調査 2024・2025年度報告書」を添付しましたので参照ください。

図12 種類数と個体数の変化（国分川調節池緑地）



【特記】

4月11日：野球場の草地にツグミ 8羽が見られました。

7月15日：チョウゲンボウがホバリングして、餌を探していました。

9月12日：中学校の野球のバックネットにアカエリヒレアシシギが絡まって死んでいました。日はあまり経っていないようでした。

11月14日：共生サイトエリアの上空をハイタカがゆっくりと旋回していました。

12月9日：春木川にクサシギ・イソシギ・セグロセキレイが並んでいました。

1月16日：国分川沿いにアオサギ・ダイサギ・コサギの 40羽以上の群れが休んでいました。どうも国分川に遡上しているボラを狙って集まったようです。

1月16日：春木川にクサシギ・イソシギ・タシギが並んでいました。

2月6日：中湿地の刈られたアシの中から、ヒクイナが時々、顔を出していました。2羽確認しました。



セッカ：2025 年 6 月 20 日



アカエリヒレアシシギ：：2025 年 9 月 12 日



イツシギ・クサシギ・セグロセキレイ：2025 年 12 月 9 日



キセキレイ：2026 年 2 月 9 日



チョウゲンボウ：2025 年 7 月 15 日



ハイタカ：2025 年 11 月 14 日

4-13. 真間山・弘法寺周辺

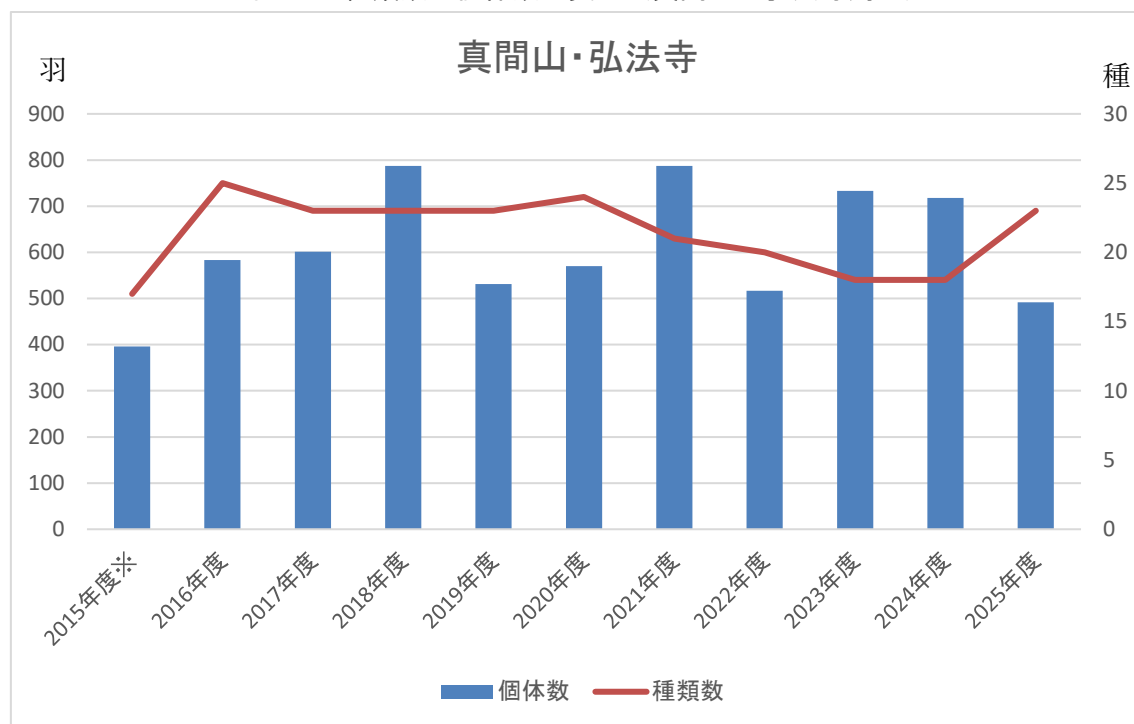
調査地の環境変化

昨年と大きな変化はありませんが、数年前に剪定が行われた弘法寺南側の石段両側の樹木の緑量は回復していません。

調査結果

23 種 492 羽の鳥類が確認されました。昨年度に比べ種類数は 5 種類増加しました。2025 年度は森林性の冬鳥の飛来が多かったことが一因になっています。個体数が減少したのはヒヨドリによるものでした。秋の渡りの時期にヒヨドリの大群に出会うと個体数が増加します。今年度は大きな群れに出会わなかったためです。

図 13 種類数と個体数の変化（真間山・弘法寺周辺）



【特記】

6月17日：幼鳥を連れたムクドリ家族群が多数見られました。ムクドリはタブの実を食べて居ました。

10月28日：ケヤキの樹冠にヒガラ6羽が「チィチィ」と鳴きながらやってきたと思ったら、直ぐに飛び去ってしまいました。

12月23日：1羽のキクイタダキがタブノキの枝先でホバリングをして餌を探していました。

2月20日：林の奥のほうからツミの鳴き声が聞こえてきました。



シロハラ：2026 年 3 月 12 日

4 -14. 里見公園

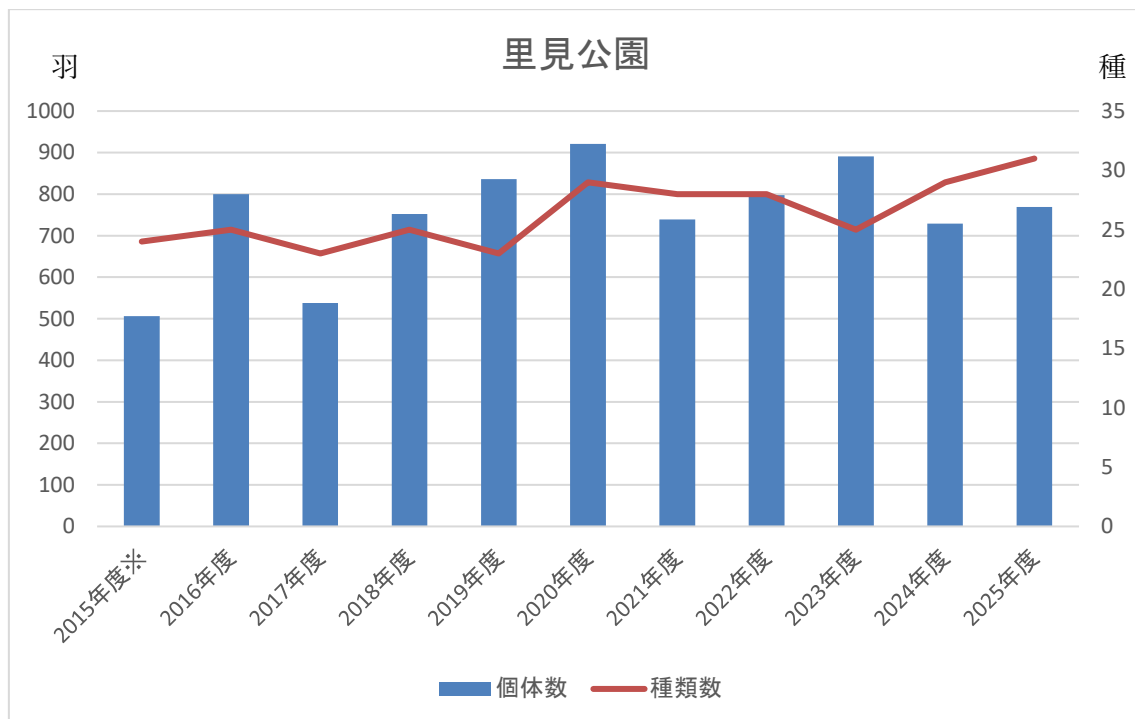
調査地の環境変化

特に大きな変化はありません。

調査結果

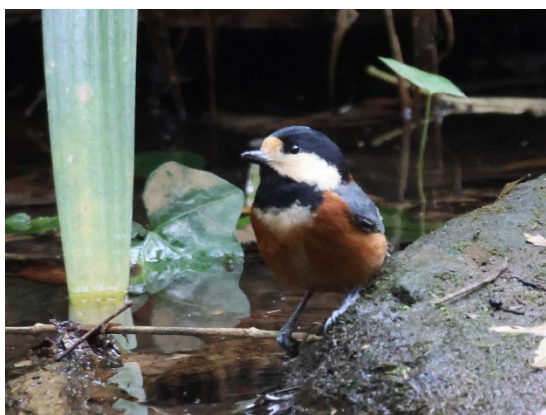
31種769羽の鳥類が確認されました。種類数・個体数とも例年と大きな変化はありません。外来種のワカケホンセイインコが引き続き記録されました。調査日外ですが、1月27日には10羽の群れが確認されました。

図14 種類数と個体数の変化（里見公園）



【特記】

- 9月9日：イネ科植物（メヒシバ）の種をスズメの群れがついばんでいました。
- 10月3日：ヤマガラ3羽がエゴノキに飛来して、実をくわえていきました。
- 10月27日：ムクノキでイカル8羽、マミチャジナイ2羽、シロハラ2羽がとまっていました。イカルはよく囀っていました。＜調査外＞
- 11月4日：林の中からアカゲラの声が聞こえてきました。
- 11月25日：ウソの声が聞こえてきましたが、姿を確認することはできませんでした。
- 12月5日：園内にアオバトの羽根が散乱していました。猛禽類の餌食になったようです。
- 12月5日：公園の植込みの中で、ハイタカがドバトの羽根をむしって食べていました。
- 1月5日：メジロの群れにリュウキュウサンショウクイ2羽が混じっていました。
- 1月13日：樹木の間を移動しているアカゲラを見ました。＜調査外＞
- 1月27日：ワカケホンセイインコ10羽が里見公園と周辺の斜面林を飛び回っていました。エノキの黒くなった実をついばんでいました。＜調査外＞
- 2月10日：カラの群れの中に、キクイタダキ8羽が混じり、一緒に移動していきました。
- 3月6日：ルリビタキの美しいオスが景石の上にとまりました。



ヤマガラ：2025年11月25日



ハイタカ：2025年12月5日



リュウキュウサンショウクイ：2026年1月5日



ルリビタキ：2026年3月6日

4 -15. 江戸川河川敷

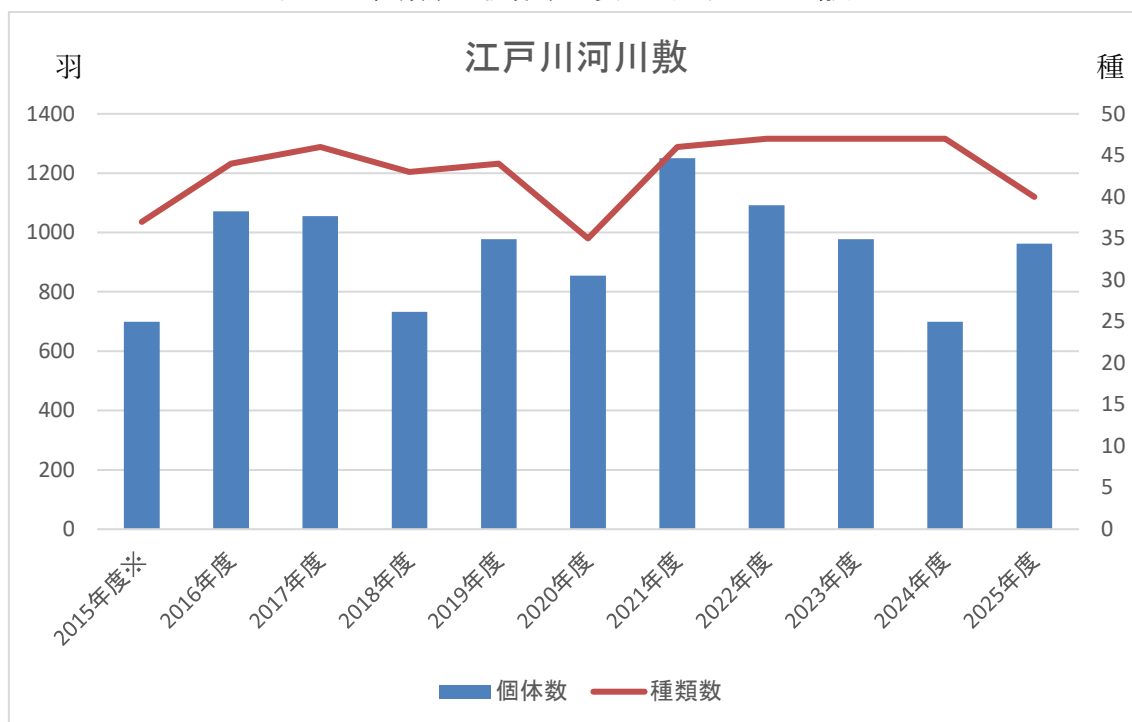
調査地の環境変化

特に大きな変化はありません。

調査結果

40 種 962 羽の鳥類が確認されました。種類数が減少しました。年々、セッカの記録が減少しています。特定外来生物のガビチョウが引き続き確認されました。

図 15 種類数と個体数の変化（江戸川河川敷）



【特記】

4月29日：ガビチョウ2羽が藪の中で鳴いていました。＜調査日外＞

5月16日：モズがオオヨシキリを追いかけていました。

5月16日：ブッシュの中からモズのヒナと思われる声が聞こえてきました。

6月6日：飛んでいるツバメの尾は短いものが多く、幼鳥のようでした。

6月17日：ブッシュの中でガビチョウが鳴いていました。＜調査外＞

6月17日：ホオジロがヒナ3羽を連れていました。＜調査外＞

10月3日：2羽のモズが追いかっこをしていました。なわばり争いと思われます。

10月3日：上空を20羽程の群れで渡るヒヨドリが見られました。

10月27日：アリスイが鳴いていました。ビオトープ池の草原からはヒクイナの声が聞こえてきました。＜調査日外＞

11月26日：ワカケホンセイインコ2羽が、西から東へ飛んでいきました。＜調査日外＞

2月10日：河川敷のアシ原の中からクロジの地鳴きが聞こえたので、しばらく待っていたらクロジ1羽が飛び出しでヤナギ類の枝にとまりました。

3月6日：ガビチョウ1羽が笹藪の中で大きな声で鳴いていました。

3月6日：ヒバリ1羽がビュル、ビュルと鳴きながら西から東に飛んでいきました。

3月6日：ビオトープ池の藪の中からクイナの鳴き声が聞こえてきました。



クロジ：2026年2月10日



カシラダカ：2026年1月5日



ハシボソガラスの群れ：2026年2月21日

4 -16. JR 市川駅周辺

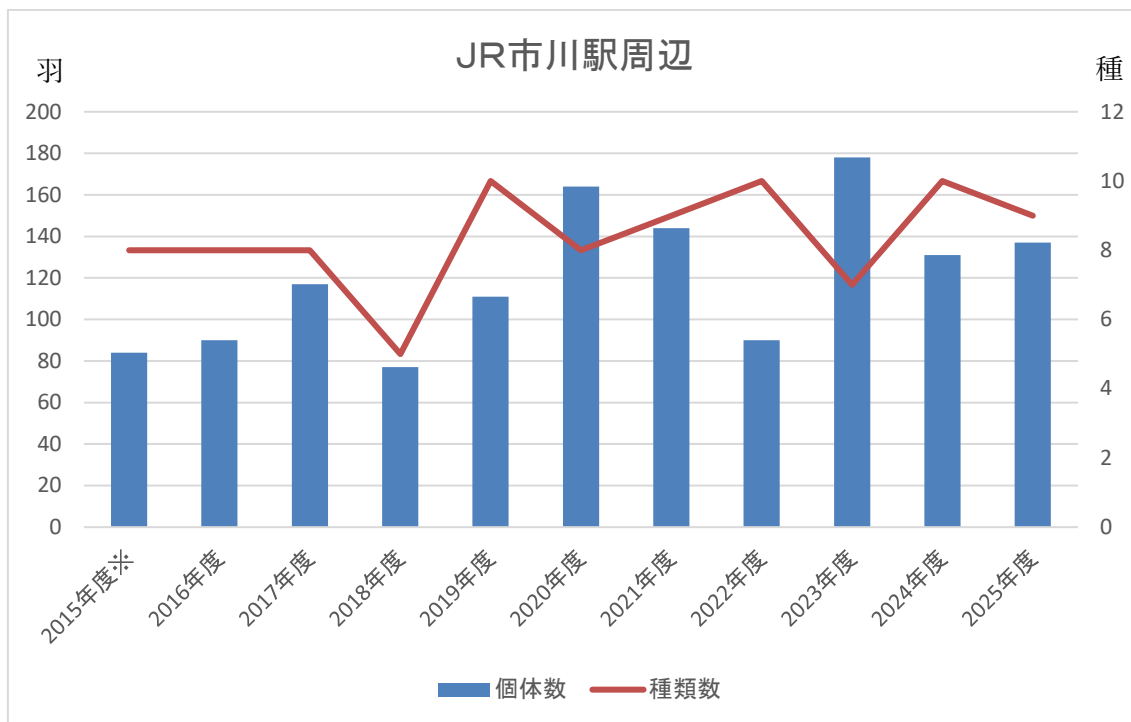
調査地の環境変化

特に大きな変化はありません。

調査結果

9 種 137 羽の鳥類が確認されました。例年と大きな変化はありません。

図 16 種類数と個体数の変化（市川駅周辺）



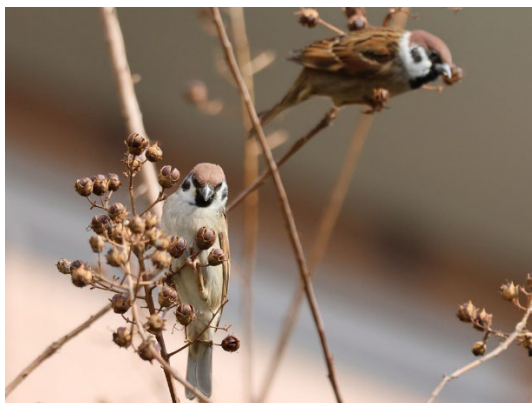
【特記】

12 月 23 日：団地に植栽されたサルスベリの種を 3 羽のスズメが食べて居ました。

2 月 17 日：民家の庭で、メジロ 3 羽がウメの花の蜜を吸っていました。



ジョウビタキ：2025 年 12 月 23 日



スズメ：2025 年 12 月 23 日

5. 外来種について

外来種として、特定外来生物に指定されているガビチョウ、生態系被害防止外来種リストで、「その他の総合対策外来種」に指定されているワカケホンセイインコが昨年度に引き続き確認されました。ガビチョウは昨年度同様、江戸川河川敷と里見公園で確認されています。

ワカケホンセイインコは里見公園で10羽の群が確認されました。今後の動向を注視したいと思います。



ガビチョウ：2026年3月6日江戸川河川敷 ワカケホンセイインコ：2026年1月7日 里見公園

6. レッドデータ掲載種

調査を開始した2015年度から2025年度までに調査地全体に出現した鳥類で、国又は県のレッドリストに掲載されているのは54種でした。調査地別の確認種は表3「調査地別レッドデータ種確認状況一覧表」を参照してください。

一覧表中の調査地凡例は以下の通りです。

①：大町自然観察園 ②：大野町4丁目水田 ③：大野町4丁目ふれあい水田(小川再生親子ふれあい農園) ④：こざと公園 ⑤：大柏川第一調節池緑地 ⑥：柏井調整池 ⑦：柏井青少年の森 ⑧：小塚山公園 ⑨：堀之内貝塚公園 ⑩：じゅん菜池緑地 ⑪：国分川調節池緑地 ⑫：真間山・弘法寺周辺 ⑬：里見公園 ⑭：江戸川河川敷 ⑮：JR市川駅周辺

千葉県レッドデータ（2019年）カテゴリー

X：消息不明 A：最重要保護生物 B：重要保護生物 C：要保護生物 D：一般保護生物

国（環境省）レッドデータ（2026年）カテゴリー

EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR+EN：絶滅危惧Ⅰ類 CR：絶滅危惧ⅠA類
EN：絶滅危惧ⅠB類 VU：絶滅危惧Ⅱ類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足
LP：地域的に孤立している個体群で、絶滅のおそれが高いもの

表3 調査地別レッドデータ種確認状況一覧表（●が確認された種：2015～2025 年度）

No.	種名	国RDE	県RED	調査地別確認状況														
		2026年	2019年	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮
1	オシドリ		B										●					
2	トモエガモ	DD											●					
3	オカヨシガモ		C				●	●	●				●	●			●	
4	ヨシガモ		B				●	●	●				●					
5	ホシハジロ	NT					●	●	●				●	●			●	
6	キンクロハジロ	VU					●	●	●				●	●			●	
7	スズガモ	NT	D					●					●	●				
8	アマツバメ		A	●												●	●	
9	ホトギス		C	●								●						
10	ツツドリ		C													●	●	
11	クイナ		X					●						●			●	
12	バン		B				●	●						●			●	
13	オオバン		C	●			●	●	●				●	●			●	
14	ヒクイナ	NT	A					●						●				
15	カイツブリ		C				●	●	●				●	●			●	
16	カンムリカイツブリ		D										●				●	
17	セイタカシギ	DD	A											●				
18	ムナグロ	VU	B											●				
19	コチドリ		B		●	●		●						●		●	●	
20	チュウジシギ		A														●	
21	イソシギ		A					●						●			●	
22	クサシギ		C					●						●				
23	タカブシギ	VU	B						●					●				
24	ウミネコ	VU															●	
25	ゴイサギ	VU			●	●	●	●	●				●	●			●	
26	チュウサギ	NT	B		●	●	●	●						●			●	
27	コサギ	VU	B	●	●	●	●	●	●				●	●			●	
28	ミサゴ		B														●	
29	ツミ		D	●	●		●				●	●	●		●	●	●	
30	ハイタカ	NT	B	●	●	●				●			●	●		●	●	
31	オオタカ	NT	C	●	●			●		●	●	●	●	●		●	●	
32	サシバ	VU	A									●				●	●	
33	ノスリ		C					●								●	●	
34	フクロウ		B	●														
35	ブッポウソウ	EN										●						
36	カワセミ		C	●		●	●	●	●				●	●		●	●	
37	アカゲラ		C	●						●	●	●	●		●	●	●	
38	サンショウクイ		X	●						●		●	●					
39	サンコウチョウ		A							●	●	●	●		●	●		
40	カケス		D	●						●	●	●	●		●	●		
41	オナガ	NT		●			●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	
42	ヒバリ		D			●		●		●				●			●	
43	イワツバメ		D				●	●						●	●			
44	オオムシクイ	EN								●						●		
45	セッカ		D			●		●						●			●	
46	ミソサザイ		C	●									●					
47	トラツグミ		A	●						●		●						
48	コサメビタキ		A									●						
49	キビタキ		A	●						●	●	●	●		●	●	●	
50	キセキレイ		B	●		●	●	●		●		●	●	●	●	●	●	
51	ホオジロ		C	●	●	●	●	●		●				●			●	
52	ホオアカ		C			●												
53	カシラダカ	EN			●	●							●				●	
54	オオジュリン		D		●	●	●	●						●			●	

7. 摘要

- ・調査地全体でみると 2025 年度に確認された鳥類の種類数は 85 種類、個体数は 11,476 羽でした。
- ・2015 年 7 月以降の調査により、調査地全体で 124 種類が記録されました。
- ・2025 年度の冬期は、比較的多くの森林性の冬鳥が観察されました。樹林環境を持つ調査地で、確認種類数が例年より多くなりました。
- ・大柏川第一調節池緑地で、近年繁殖しているアオサギと同じ場所で、コサギの繁殖が確認されました。コサギの地上繁殖は珍しい事例です。
- ・江戸川河川敷で種類数が減少しました。また、年々、セッカの記録が減少しています。特定外来生物のガビチョウが引き続き確認されました。
- ・外来種として、ガビチョウ（特定外来生物に指定）とワカケホンセイインコ（生態系被害防止外来種リストでその他の総合対策外来種に指定）が引き続き確認されました。里見公園では、ワカケホンセイインコ 10 羽の群れが確認されました。
- ・千葉県レッドデータや国（環境省）レッドデータに掲載されている種類は 54 種類です。

調査・報告書作成：鈴木弘行（自然環境政策専門員）